海野ゆかり1走入魂

年末のクイーンズクライマックスへ まず地元戦「優勝できたら最高ですね」

宮島でブチ上げ！ 注目のレーサーにインタビュー ③

今、ボートレースが熱い！ 宮島も熱い！ 広島支部のレーサーを中心に深掘りするインタビュー企画「宮島でブチ上げ」の3回目は、海野ゆかり（52＝広島）をピックアップ。8月末の時点で女子賞金ランクは19位。年末のクイーンズクライマックスにかける思いと、地元の宮島を走る時の意気込み、平成から令和を走り続ける女子レーサーの取り組みについて熱く語った。

女子人気「すごい」

平成4年の宮島でデビューし、いきなり女子リーグ戦に参戦。初勝利こそ挙げられなかったものの、2着1本、3着1本で上々のプロデビューを果たした。あれから34年たった今の女子レーサーの人気については「すごいですよね。何か先輩方が積み重ねてきた努力というのか、つながってきてね。若い子たちも頑張ってきていますからね。女子レースは毎回やりたくないとか言われ続けてきて、今は逆じゃないですか。歴史ですよね」。今は月に4節ほどは各地で開催されており、長く業界に貢献してきた1人だ。現在、女子レーサーも200人を超えており、さらに女子のP・GIの盛り上がりもSGに負けていない。

今と昔の女子戦の違いは「若い子たちはペラも上手ですし、レースとかもスピードがあるし、付いていこうと思っていますす。自分が若い時に比べたらエンジンの出し方が違いますね。情報とかも多いし…」。レーススタイルの変化も激しいが、海野は豊富な経験値を生かしたベテランの走りで奮闘する。レースを続けるテーマは「モチベーション。元々、冷めた人間だったんですけど、落ち着いたかな。ケガをさせたくないし、したくもないし。そこをカバーしながらA級になれたら」と1走、1走レースに集中している。若い後輩については「楽しそうにみんなやっているし、いいかなと思う。昔みたいにピリピリした感じはなくなった」。デビュー当時はキャリアが全て。進入から厳格だった。「なかなかコースも取らせてくれなかった時代だったんでね」と振り返る。

「モチベーション」

18日からGⅢオールレディース宮島プリンセスカップが6日間開催される。「宮島は目立ちたいし、勝ちたいし。この間、優勝した時にあんなに感動するかね、っていうほど感動した。最近は優勝するのが大変で、優勝できたら最高ですね。勝つ気で行きたいです。地元なので頑張ります」。その地元戦はこれまで7度の優勝。今年3月のヴィーナスシリーズ以来、8度目のVを狙っている。8月末の時点で女子賞金ランクは19位。12月住之江のP・GIクイーンズクライマックスには「いつもそのくらいの位置ですね。今はリズムに乗れていないから、落ち着かずにレースするのは嫌なんで、慎重にレースするけど、12人に残れたら残りたいです」。1走1走の積み重ねと、冷静なハンドルさばきが海野の真骨頂だ。宮島プリンセスカップで地元のファンに熱くアピール。年末のベスト12入りを目指して1走入魂の心意気を見せる。



年末のベスト12入りを目指して
意気込む海野ゆかり

◆海野（うんの）ゆかり 1973年（昭48）11月28日、広島県生まれ。71期生として、92年11月宮島でデビュー。98年7月大村で初優勝。通算優勝66度。GI優勝2度。2000年5月蒲郡オールスターでSG初出場。同期は深川真二、岩崎芳美、馬袋義則、角谷健吾がいる。164㌢、45㌔。血液型O。